

## Ⅱ 授業実践

### 第4学年 国語科 学習指導案

日時 令和7年11月19日（水） 第5校時  
場所 温知学舎 世田谷区立鳥山小学校  
学級 第4学年3組 31名  
授業者 阿部 瑞恵

<校内研究主題>

### 主体的に探究する児童の育成 ～共に学び合い、伝え合う国語科の授業づくりを通して～

1 単元名 つながりを見つけながら読み、おもしろいと思ったことを話し合おう  
教材名 「友情のかべ新聞」（光村図書 国語四下 はばたき）

#### 2 単元の目標

本単元の目標は、以下のように設定されている

- 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。【思C（1）エ】
- 幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。  
【知（3）オ】

上記の内容を本教材に照らし合わせると、以下の目標となる。

- 「東君」と「西君」の行動・様子や、二人の関係の変化を場面と場面のつながりを見つけて捉えて読むことができる。【思C（1）エ】
- つながりを見つけながら読む読み方を活かして、ミステリ作品の読書を楽しむことができる。  
【知（3）オ】
- 「ぼく」が何を手がかりにして推理したのか、読み取ったことや考えたことを伝え合うことで違いを理解し、共有する楽しさに気付くことができる。【思C（1）カ】
- 積極的に場面と結び付けながら登場人物の変化を捉え、進んでミステリ作品を紹介するポスターを作つて読み合い、次に読みたい作品を見つけようとする。【学びに向かう力、人間性等】

#### 3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 【（3）オ】	「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付いて具体的に想像している。 【C（1）エ】	積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、学習の見通しをもって、おもしろいと思ったところを伝え合うとしている。

#### 4 単元について

##### 【単元の位置づけ】

本単元が位置づく系列は、様々なジャンルの本に触れる目的としている。

※★…重点的に取り組んだこと

三年生

##### まいごのかぎ

- 出来事の前後で、人物がどのように変化したかを考える。

##### ちいちゃんのかげおくり

- 場面を比べながら読み、感想をもつ。

##### 三年とうげ

- 内容や書かれ方に着目して読み、お話のおもしろさを見つける。

四年生

##### 白いぼうし

- 色やにおいを表す言葉などに着目して、出来事と人物の気持ちを捉える。

★叙述の「初夏」に関する言葉に着目させ、作者の設定に着目した。

##### 一つの花

- 繰り返し出てくる物や言葉について考える。

##### 【設定】

★場面の様子を表す言葉や対人物の行動・言動から、心情を考えた。

##### ごんぎつね

- 人物の気持ちの変化をとらえて、感想をもつ。

##### 【情景】

★叙述の言葉を手がかりに、登場人物の性格や気持ちの変化、情景について、場面の移り変わりと結び付けて想像しながら読み進めた。

##### 友情のかべ新聞

- つながりを見つけながら読み、人物の行動や様子の理由を想像する。

##### スワンレイクのほとりで

- 人物の思いについて、観点を選んで読み深め、互いの考えを比べながら交流する。

五年生

##### やなせたかしーアンパンマンの勇気

- 伝記に描かれた人物の生き方や考え方について、自分自身と結び付けて考えをまとめる。

## (1) 教材について

本教材は、教科書教材（文学的文章）では、初めての推理作品である。いつもとても仲の悪い西君と東君が中井先生に叱られてかべ新聞を作ることになり、クラスのみんなとぼくは「二人には無理だ」と思っていたが、教室に貼ってあったかべ新聞を見て驚くと同時に急に仲良くなったように見える二人の行動に違和感を覚え、疑問を抱いたぼくが、二人の行動を手掛かりに推理をしていく作品である。

児童の身近にある出来事を題材にしているので、読者が自然と物語に感情移入しやすい。どの学級でも起こりうる出来事を事件にしたり、登場人物もこの年代の児童の成長に合わせて設定したりしているからこそ、「身近にある不思議が謎となり、理論的な思考で解くことで意外な真相が現れる。」という作者の思いが伝わってくる。「ぼく」の一人称視点で話が展開されていく。児童も物語を読み進めるにつれ、出来事と自分の体験を比べたり、「ぼく」の視点に自分を重ねたりすることで、「ぼく」と一緒に読み進めているような不思議な感覚を味わえる。しかし、あくまでも「ぼく」の視点から見た二人の様子であり、相手の気持ちが「ぼく」の推理通りとは限らない。「東君」と「西君」の特徴や行動描写などを手掛かりに、推理する「ぼく」と共に読者が謎を解き明かすために論理的な読みを進めることができる。

また、「ぼくのすいり」や結末、あるいは事実の確認から、何度も作品を読み直し、答え合わせがしたくなる。読み直すことで、初読では気が付かなかった物語の布石や伏線に気付き、結末と結びついたり、新たな結びつきを発見したりするところにもおもしろさを感じる。このような作品の特徴を生かして謎解きのおもしろさを味わうことに加え、見つけた謎の答えを面白さと感じ、他者に伝えたくなる思いに動かされた姿に主体的な読みを見出し、面白さを伝え合う言語活動を取り入れていきたい。

(2) 教材文の分析【文章構造図】

	結			転 事件4		承 事件3	承 事件2	承 事件1	起	場面	
10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	登場人物の心情や行動	
P78 L8	P77 L12	P75 L9	P75 L5	P74 L4	P73 L8	P72 L1	P69L11	P68 L1	初め	場面の特徴	
相手を思い浮かべながら壁新聞を作成させた「東君」と「西君」。	互いに失敗を認め合うことと「東君」と「西君」。	「ぼく」による推理。	「中井先生」にも、隠していた秘密を素直に認める、「東君」と「西君」。	「ぼく」が、東君と西君と、疑問に思う「ぼく」。秘密が公になる。	仲が良くなつたように見える「東君」、「西君」と、隠している秘密に気づく。	完成した壁新聞を見て驚く「クラスのみんな」と、得意顔の「中井先生」。	壁新聞作りの協力を拒否する「東君」と「西君」。	行動や性格が正反対な「東君」「西君」と、それを客観視する「ぼく」。	「ぼく」から見た「東君」と「西君」の紹介（性格や行動が正反対なこと）と二人を客観視している「ぼく」の紹介。	花瓶を割つてしまつた「東君」と「西君」が、「中井先生」に叱られて、一人で協力して壁新聞を作ることを提案された。	
二人が「中井先生」の大作戦をから、互いを知つて仲良くなり、「ぼく」や「クラスのみんな」も、なんだかうれしくなつて、安堵した。 ※最後の一文により、その後の二人の関係を読者も想像してしまう表現になつていてる。	互いに相手をかばうように応えた二人のこれまでに見なかつた心の成長と変容に「中井先生」が嬉しそうに微笑んでいる。※2と対比。	「ぼく」の推理が始まる。これまでの事情や出来事などから「ぼく」が推理し、一人が協力して壁新聞を書くことになつた日からの出来事を時系列に沿つて説明している。そして、二人が仲良くなつたことも推理している。	隠していた秘密がばれて、二人が「中井先生」に聞かれる。	翌週の月曜日に、「ぼく」が一人を呼んで、隠していた秘密の謎を解き明かし、一人がうなだれても、どこかほつとした顔で言つたと同時に、教室の後ろで、誰かが壁新聞を破り、秘密がばれてしまう。	「ぼく」が、二人がかいた壁新聞の秘密に気付く。（ミステリの謎が解き明かされそうな予感のする書き方に、読者が面白さを感じる。）	それから、一週間もの間、一人が仲よさそうに見えるが、「ぼく」には、そこに何か理由があるようと思えて仕方がない。（物語の展開に読者が引き付けられる。）	協力して壁新聞を作ることを嫌がり、「クラスのみんな」も無理だと思っていたのに、火曜日の朝、壁新聞が完成していた。更に、それから二人が休み時間と一緒に過ごすようになったことへの不思議さ。（ミステリの始まり）	「ぼく」が、二人がかいた壁新聞の秘密に気付く。（ミステリの謎が解き明かされそうな予感のする書き方に、読者が面白さを感じる。）	花瓶を割つてしまつた「東君」と「西君」が、「中井先生」に叱られて、一人で協力して壁新聞を作ることを提案された。	「ぼく」から見た「東君」と「西君」の紹介（性格や行動が正反対なこと）と二人を客観視している「ぼく」の紹介。	花瓶を割つてしまつた「東君」と「西君」が、「中井先生」に叱られて、一人で協力して壁新聞を作ることを提案された。

### (3) 児童の実態について

本学級児童は、進級当初は国語を苦手、難しいと感じる児童が大半を占めていた。1学期のアンケート結果からは、①主体的に学習する姿や学習計画の設定、②課題解決に向けた学び方やその選択方法、③学びを次時の学習に生かしたりつなげたりする力に課題があると考察した。

一方で、読書を好む児童が多い。朝読書や図書の貸し出しを見ていると、文学作品を手に取る児童が半数はあるが、その反面、自分に合った図書を手にしたり、自分で読書の幅を広げたりすることが難しい児童も混在する。日頃から読書の幅を広げるために、読書課題を設定して様々な文種の図書に触れるように促したり、教科学習に合わせた関連図書、並行読書の環境を整えたりしている。

そこで、「読むこと」の領域(文学的文章)『白いぼうし』、『一つの花』、『ごんぎつね』を学習では、叙述の言葉や表現から登場人物の気持ちを捉えたり、情景描写を手掛かりに場面を想像して人物の気持ちの変化を捉えたりすることに重点を置いて学習を進めてきた。先三つの文学的文章の学習では、①全文シートの活用、②意味調べ、③初読をもとにした学習計画づくりと課題設定、④個人と小集団で考える時間の確保を手立てとして打ち、児童の精査・解釈を進められるようにした。その結果、単元学習と同時に全文シートにて物語や思考を整理したり、つながりを見つけたりする姿が見られるようになってきた。国語の面白さを味わい始めた児童が増えてきたことをこれまでの実践より感じ取れる。

本単元は、ミステリ作品であるが、物語を推理しながら読み進める文学に触れている児童は少ない。今回も、事前に校内図書室、公共図書館等を利用し、児童文学の中から「ミステリ作品」を用意し、児童が自由に手に取って楽しめる環境を整備した。また、本単元でも全文シートを活用し、児童が物語の内容や自身の思考整理の手助けとなるようにしていきたい。そして、「東君」と「西君」の関係の変化を場面と場面、人物と人物などのつながりから捉えて読み進めることで、登場人物全員の関係の変化に気付かせ、作者のミステリ作品に込めた面白さの読みにつなげたい。

## 5 めざす児童像との関連

自らの学びを自覚し、すすんで取り組める子

中学年の目指す児童像  
「学習を振り返りながら、自分の学びを選べる子」

中学年では、「自らの学びを自覚し、すすんで取り組める子」を達成するためには、児童が主体的に取り組めるような必然性のある課題設定が重要と捉えている。そのために、目標やゴールイメージなどの単元全体の見通しをもたせた上で、初発の感想や疑問をもとに児童が問い合わせを設定して、学習を進めるように計画を立てる(学習計画)。

また、前単元の既習事項や毎時間の学習の振り返りを活用して児童一人一人が「どう解決するか」を選択したり、「どのように伝えるか」の表現方法を工夫したりして、児童の学び方を選択できるようにし、探究的に学習を進める児童の育成を目指す。そのために、教師側は既習事項を振り返らせたり、学習状況を確かめさせたりして児童に問い合わせ、目標に沿った多様な手立てで学びを支援できるようにしたい。

## 6 研究の手立て

### (1) 主体的に学習するための学習計画の工夫

単元の初めに教科書の「見通しをもとう」を活用し、目標やゴールイメージを示すことで児童が見通しをもって学習に取り組めるようにした。また、「何を」「どのような方法で解決していくか」を既習した単元から思い出させて、学習計画を児童が計画したり、初発の感想を元に課題設定(問い合わせ)をしたりすることで、単元を通して主体的に探究する児童の育成をねらう。学習計画を視覚的に提示したり、授業の初めや終わりに確認したりすることで、学習の進行状況や目標を児童自身が把握してその日の学習や次への学習に主体的に取り組めるようにしていきたい。

### (2) 学び方の工夫

#### 課題解決に向かう場の工夫

これまでの本学級児童の実態を振り返ると、個人で考えたい時間、小集団で考えたい時間、誰かの助言をもとに考えたい時間の3つに分けることができる。よって、本単元学習では、①個人学習、②小集団での学習(意見交換、教え合い)、③担任との学習の場(助言程度)という学習の場を設定する。小集団での学習では、教師の意図的な学習班を作らず、自分が一緒に学習したい(考え方を聞きたい)児童のもとへ声をかけに行き、助言し合ったり、対話し合ったりを行わせる。そうすることによって、児童自身が追究したい課題も同時に解決でき、それが本時ごとの学習課題の解決につながると仮定した。それこそが、児

童の主体的な学びになると考へたからである。

### (3) 自分の考えを形成させるための工夫

## ① 全文シートの活用

教材文の全体を把握し、場面・段落や事柄のつながりを意識しながら読む力につけるために、1学期より教材文全文と挿絵が1～2枚のシートにまとめたものを活用してきた。出来事と人物の気持ちがわかる叙述の言葉に着目させサイドラインを引かせたり、印をつけさせたりして、気持ちの変化を読み取れるようにした。回を重ねるごとに、各々が工夫をし、場面ごとのつながりや登場人物の気持ちの表れに着目して学習を進めることができるようになってきた。

本単元では、「ぼくのすいり」を検証する際に、「ぼく」の視点から見た「東君」「西君」の行動やクラスのみんなの行動に再度戻ると予想される。「ぼくのすいり」がどこの二人の行動を根拠に推理されているのかやどう気持ちが変化していったのかに迫るには、有効だと考える。

## ② 「学び方ハンドサイン」の活用

自力解決する際の学習形態（①先生と ②友達と ③一人で）を選択できるようにし、『学び方ハンドサイン』として学習に取り入れた。本時の課題を把握した時点で、児童一人一人の課題に対しての難易度、見通しなどに個人差が生まれる。本時のめあてを提示し、「どのように学ぶか（解決するか）」を児童自身が『学び方ハンドサイン』を使って示し（全員参加）、学習形態を選択することで主体的に取り組むことをねらう。また、友達と共に解決することで自分の考えに自信がもてるようになったり、友達に教えることで考えが深まったりして、学び合いを通して自己肯定感や探究心を高めたい。

※その場にて、挙手にて学び方を表明できない児童については、指導者が個別に支援をする。

#### (4) 言語環境を整えるための手立て

### 関連図書に触れる（並行読書）

本学年では、全教科の学習で関連図書を単元導入前からブックトラックに置いています。毎週の朝読書の時間や隙間時間に児童が自由に読書できるようにすることで、関連図書から情報・知識を得ることができたり、単元末の言語活動に生かしたりすることができると考えて取り組んでいます。

今回も、第7・8時にて、他のミステリ作品を紹介するポップを作り、交流を図ることを計画している。しかし、ミステリ作品の大概は、文量が多く、児童の読書力を考えるとすぐに読み進めることや自分に合った作品に出合うことは容易ではないと考えた。そこで、単元に入る2週間くらい前から、学年のブックトラックにコーナーを設け、児童の興味関心を高めて手に取ってもらえるようにした。また、協働的な学びを実現するために、「並行読書マトリックス（※1）」を活用し、児童が読んだ作品に印を貼って、視覚化した学びができるように工夫をする。単元末の言語活動では、これを活用し、友達に紹介したい本を選び、ポップ作りに生かしたい。

また、先に述べた児童の読書力を考慮する。読みやすい作品や難解な作品など読書の程度に幅を持たせて選定を行うことで、児童の読書へのハードルを変動させ、「読書を楽し」ませたい。

資料：「並行読書マトリックス（※1）」

教科書掲載の図書「この本、読もう」と単元学習に合ったと思われる図書（担任選定）を一覧化して掲示する。児童は、読んだ図書に印をつける。

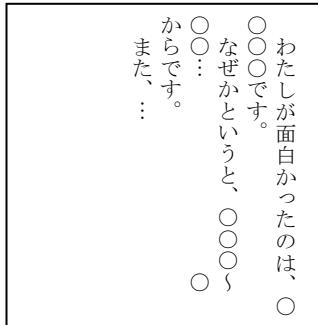
(例: ●紹介する図書 ●面白かった、おすすめ ●まあまあ ●あまり好きではなかった)

## 7 学習指導計画（全8時間）

過程	○ねらい	○主な学習活動 ・予想される子どもの反応	◇指導上の留意点 ★評価規準（方法）
課題把握 (1・2)	・「ぼく」の推理を予想し、交流することを通して、場面と場面のつながりを読むとよいことに気付き、作品の面白さを探るといふめあてを意識して学習の見通しをもつことができる。	<p style="text-align: center;"><b>【1・2時】 『友情のかべ新聞』を読んで、物語の謎をまとめよう。</b></p> <p>○自分が知っている「不思議や秘密を見破るお話」の作品を発表し、「ミステリ作品」の面白さや、読んだ時の感想について話し合う。</p> <p>○教科書 P65 の題名やリード文から物語の内容を想像する。      ※題名読み→想像することを話し合う。</p> <p>○範読を聞き、感想をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ぼくは、○○と思いました。</li> <li>・私は、○○が不思議に感じたよ。</li> <li>・私も、同じこと思ったよ。</li> <li>・そこは、○○と受け取ったよ。</li> <li>・みんなで考えたいね。</li> </ul>	<p>◇「この本、読もう」で取り上げられている本などのミステリ作品から、読みたい本を選び、並行して読み進める。</p> <p>◇リード文を読み、題名から物語についての想像を膨らませ、ミステリ作品を読むことに関心をもたせる。</p> <p>◇「ぼく」視点で書かれていることを気付くように促す。</p>

	<p>○この物語の「謎」を確かめる。</p> <p>※謎=児童が感じた不思議な出来事</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁新聞が出来上がったわけ</li> <li>・二人は、本当に仲良くなつたのか。</li> <li>・東君と西君とぼくの関係</li> <li>(・中井先生の作戦通りだったのか。)</li> </ul> <p>○場面設定、登場人物（名前のみ）、あらすじを確認する。</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>場面</td><td>学校の教室</td></tr> <tr> <td>時</td><td>月曜日の学芸会準備の時（後） ～1週間</td></tr> <tr> <td>登場人物</td><td>東君 西君 ぼく クラスのみんな 中井先生</td></tr> </tbody> </table> <p><b>【あらすじ】</b></p> <p>東君と西君がとっても仲が悪くて、対抗心を燃やしている。学芸会の準備中に花瓶を割って、相手が悪いと責任を押し付け合っているから、中井先生に叱られた。そして、二人で壁新聞を作つてなぜか仲良くなっているから、ぼくがおかしいなと思い、推理をはじめる。かべ新聞が破れたことによって、どうして仲良く見えていたのかが判明する。</p> <p>○単元ゴールを確認し、学習計画を立てる。</p> <p>※単元終末の言語活動を設定させる。</p> <p>※紹介カード（ポップや人物相関図など）を作り、読書意欲を喚起する。</p> <p><b>【学習問題のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東君と西君の関係の変化</li> <li>・ぼくの推理</li> <li>・作品のおもしろさ (登場人物、場面設定、表現の工夫)</li> <li>※小さな不思議(友情自学) EX:中井先生の作戦</li> </ul> <p>※友情自学=自主学習のこと。</p> <p>学習する中での自分の小さな不思議は、自主学習とし、家庭学習や隙間時間に一人で、もしくは友達と課題に取り組んで解決する（考えをまとめる）。</p>	場面	学校の教室	時	月曜日の学芸会準備の時（後） ～1週間	登場人物	東君 西君 ぼく クラスのみんな 中井先生	<p>◇初発の感想を個人で書かせ、小集団→全体で共有させる。</p> <p>◇学習計画、学習課題を確認することで、単元で取り組む学習の意識を促す。</p> <p>◇「ぼく」が推理した手がかりに気付かせ、この物語のおもしろさを探ることをめあてにする。</p> <p>★【知識・技能】 物語全体の構成や内容の大体を意識しながら読んでいる。 (音読、感想記述・発言)</p> <p>★【主体的に学習に取り組む態度】 「問い合わせをもとう」を基に、書かれていることのつながりや、おもしろいと思ったところを探究しようとしている。(記述・発言)</p>
場面	学校の教室							
時	月曜日の学芸会準備の時（後） ～1週間							
登場人物	東君 西君 ぼく クラスのみんな 中井先生							

課題解決 (3 • 4 • 5 • 6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>登場人物の人物像や役割を捉え、それらが話の展開の中でどのようにつながっているかを見つけることができる。</li> </ul>	<p><b>【3時】</b> 登場人物の性格や行動を、「ぼく」のすいりから確かめよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてを確認する。</li> <li>○登場人物の人物像を捉える。</li> <li>○「ぼく」が推理した手がかりを見つけるために、登場人物の人物像と出来事を確かめる。(登場人物の性格や行動を確かめる。)           <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良くなったように見えるよね。</li> <li>・新聞を左右半分に分けて、それぞれが好きなことを書いているよね。</li> <li>・火曜日から、互いに声をかけあったり、ゆずりあったりして過ごしているよ。</li> </ul> </li> </ul>										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>出来事と、登場人物の行動や様子を時系列に読み取り、「ぼくのすいり」とのつながりを見つけることができる。</li> </ul>	<p><b>【4時】</b> 出来事を確かめ、「ぼくのすいり」とつながるところをさぐろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてを確認する。</li> <li>○出来事とその時の人物の様子を読み取る。           <ul style="list-style-type: none"> <li>・曜日ごと</li> <li>・誰</li> <li>・したこと</li> </ul> </li> <li>○曜日ごとに、誰が、何をしたのか、読み取ったことを交流する。</li> <li>○出来事や人物の行動・様子と、8場面の「ぼくのすいり」がつながるところを見つける。</li> </ul>										
	<ul style="list-style-type: none"> <li>東君と西君の関係を中心に、この物語に描かれている変容を読み取り、題名の意味を考えることができる。</li> </ul>	<p><b>本時【5時】</b> 物語の最初と最後で変化したことを読み取り、題名の意味を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○本時のめあてを確認する。</li> <li>○物語の最初と最後で変化したことを読み取る。           <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"><b>【変化したこと】</b></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東君と西君の関係</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相手をかばうようになった。</li> <li>・仲が良くなった。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>クラスのみんなの見方</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良くなったんだな。</li> <li>・なんだかうれしくなった。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>「ぼく」の見方</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・気になって、推理を始めた。</li> </ul> </td></tr> <tr> <td>壁新聞</td><td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して新聞を貼り直した。</li> <li>・青と赤の二重の縁取りがされていた。</li> <li>・友情のかべ新聞になった。</li> </ul> </td></tr> </tbody> </table> </li> <li>○結局、二人は仲良くなったのかな。 ※心情スケールにて表す。</li> <li>◇心情スケールを使って、考えを可視化する。</li> </ul>		<b>【変化したこと】</b>		東君と西君の関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手をかばうようになった。</li> <li>・仲が良くなった。</li> </ul>	クラスのみんなの見方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良くなったんだな。</li> <li>・なんだかうれしくなった。</li> </ul>	「ぼく」の見方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気になって、推理を始めた。</li> </ul>	壁新聞
<b>【変化したこと】</b>												
東君と西君の関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手をかばうようになった。</li> <li>・仲が良くなった。</li> </ul>											
クラスのみんなの見方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良くなったんだな。</li> <li>・なんだかうれしくなった。</li> </ul>											
「ぼく」の見方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気になって、推理を始めた。</li> </ul>											
壁新聞	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力して新聞を貼り直した。</li> <li>・青と赤の二重の縁取りがされていた。</li> <li>・友情のかべ新聞になった。</li> </ul>											

	<p>○題名の意味を考える。</p>	<p>◇東君と西君は、いつから変わったのかを叙述をもとに考えさせる。</p> <p>◇これまでの物語の内容から、題名の「友情」について考える。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>この物語の面白さについて、理由や具体を明らかにして書きまとめ、交流を通して新たな面白さに気付くことができる。</li> </ul>	<p><b>【6時】</b>物語のおもしろいと思ったところについて、友達と話し合おう。</p> <p>○この物語のおもしろさについて、理由を明らかにしながらまとめる。      ※教科書P.81の書き方を例にして書く。</p> 	<p>◇これまでの学習を振り返り、いくつかある面白さに気付くように促す。</p>
	<p><b>【おもしろさ】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事件を解決する面白さ</li> <li>題名に込めた結末</li> <li>登場人物の面白さ</li> <li>「ぼく」の視点で物語を読み進め、疑問をもって読み進める面白さ</li> <li>犯人が分かっていても、結果までの推理があつていているかどうか確認したくなる。</li> <li>読んでいても、わからないことが多いくて解決しながら読みたくなる。</li> </ul>	<p>○まとめた内容を全体で共有する。</p> <p>○次時にすることを確認する。</p> <p>◇感想を個人で書かせ、書き終えた児童から小集団にて交流→全員が終わった段階で全体発表する。</p> <p>◇これまでに読んだミステリ作品を選ばせておく。「並行読書マトリックス」を活用する。</p> <p>★【思考・判断・表現】      登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(記述・発言)</p> <p>★【主体的に学習に取り組む態度】      積極的に登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けながら</p>

			<p>想像して読み、学習の見通しをもって、おもしろいと思ったところを伝え合おうとしている。 (話し合い、発言、記述)</p> <p><b>★【知識・技能】</b> 幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。 (観察、発言)</p>
まとめ 振り返り (7 ・ 8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>ミステリ作品を紹介する、紹介カード(ポップや人物相関図など)を作って読み合い、次に読みたい作品を見つけることができる。</li> </ul>	<p><b>【7・8時】これまでに読んだミステリ作品の中から、紹介したいものをえらんで紹介し合おう。</b></p> <p>○本時の活動の見通しをもち、読解マップに書く内容を確かめる。</p> <p>○読んできたミステリ作品の中から、紹介したいものを選び、紹介カード(ポップや人物相関図など)を作成する。</p> <p><b>【紹介カードの内容】※必ず入れる内容</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書名、作者名</li> <li>・おすすめの一言</li> <li>・主な登場人物とその人物像</li> <li>・出来事（事件）の始まり</li> <li>・おすすめポイント（内容、読者層）</li> </ul> <p>○紹介カード（ポップや人物相関図など）を使って互いに紹介し合い、次に読みたい作品を見つける。 ・できあがった児童から、交換し合って紹介し合う。</p>	<p>◇児童の実態を考慮し、いくつかの紹介するための手段を提示し、選ぶ。</p> <p>◇「紹介カード（ポップや人物相関図など）」に書名、作者、読みたい度数、カードのよさをメモする。</p> <p><b>★【知識・技能】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気付いている。</li> <li>・つながりを見つけながら読むことで、これから物語を読む学習で生かそうとしている。 (観察、記述、発言)</li> </ul>

## 8 本時の学習 (5/8)

### (1) ねらい

○東君と西君の関係を中心に、この物語に描かれている変容を読み取り、題名の意味を考えることができる。

### (2) 展開

時間	○学習活動 ・予想される児童の反応	◇指導上の留意点 ★【評価】(方法)																													
導入	○本時の学習課題を確認する。  物語の最初と最後で変化したことを読み取り、題名の意味を考えよう。																														
展開	<p>○物語の最初と最後で変化したことを読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・壁新聞を作る前と、後では、東君と西君の様子が違うね。</li> <li>・二人を見るクラスのみんなの目が、変わったかも。</li> <li>・「ぼく」は、気にしないと言いながら、二人をずっと見ているよね。推理しているよ。何か変わったのかな。</li> <li>・かべ新聞が出来上がった時と、かべ新聞が破れた後では、新聞の様子が違うよ。</li> </ul>	<p>◇東君と西君は、いつから変わったのかを叙述をもとに考える。</p> <p>※研究の手立て:(2)課題解決に向かう場の工夫 ※研究の手立て:(3)全文シートの活用</p> <p>※↓予想される児童の考え方</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">かべ新聞</td> <td style="width: 50%;">「ぼく」の見方</td> </tr> <tr> <td>上の方</td> <td>気にしない</td> </tr> <tr> <td>左の右</td> <td>一人を見るクラスのみんな</td> </tr> <tr> <td>それぞれ</td> <td>なかよくするのは、無理</td> </tr> <tr> <td>かが青が</td> <td>相手のせいにしている</td> </tr> <tr> <td>しれない</td> <td>たいこう心をもやす</td> </tr> <tr> <td>ふらがふら</td> <td>とても仲が悪い</td> </tr> <tr> <td>ちち作り</td> <td>東君と西君の関係</td> </tr> <tr> <td>かべ新聞</td> <td>↓</td> </tr> </table> </td> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">かばい合う</td> <td style="width: 50%;">二人でいるのが</td> </tr> <tr> <td>おうとしている。</td> <td>楽しくなった。</td> </tr> <tr> <td>ゆずりあう、協力し合う</td> <td>楽しそう。</td> </tr> <tr> <td>かべ新聞</td> <td>↓</td> </tr> </table> </td> <td style="width: 20%; vertical-align: top;"> <p>【以前の様子】</p> <p>↓</p> <p>【変化したこと】</p> </td></tr> </table>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">かべ新聞</td> <td style="width: 50%;">「ぼく」の見方</td> </tr> <tr> <td>上の方</td> <td>気にしない</td> </tr> <tr> <td>左の右</td> <td>一人を見るクラスのみんな</td> </tr> <tr> <td>それぞれ</td> <td>なかよくするのは、無理</td> </tr> <tr> <td>かが青が</td> <td>相手のせいにしている</td> </tr> <tr> <td>しれない</td> <td>たいこう心をもやす</td> </tr> <tr> <td>ふらがふら</td> <td>とても仲が悪い</td> </tr> <tr> <td>ちち作り</td> <td>東君と西君の関係</td> </tr> <tr> <td>かべ新聞</td> <td>↓</td> </tr> </table>	かべ新聞	「ぼく」の見方	上の方	気にしない	左の右	一人を見るクラスのみんな	それぞれ	なかよくするのは、無理	かが青が	相手のせいにしている	しれない	たいこう心をもやす	ふらがふら	とても仲が悪い	ちち作り	東君と西君の関係	かべ新聞	↓	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">かばい合う</td> <td style="width: 50%;">二人でいるのが</td> </tr> <tr> <td>おうとしている。</td> <td>楽しくなった。</td> </tr> <tr> <td>ゆずりあう、協力し合う</td> <td>楽しそう。</td> </tr> <tr> <td>かべ新聞</td> <td>↓</td> </tr> </table>	かばい合う	二人でいるのが	おうとしている。	楽しくなった。	ゆずりあう、協力し合う	楽しそう。	かべ新聞	↓	<p>【以前の様子】</p> <p>↓</p> <p>【変化したこと】</p>
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">かべ新聞</td> <td style="width: 50%;">「ぼく」の見方</td> </tr> <tr> <td>上の方</td> <td>気にしない</td> </tr> <tr> <td>左の右</td> <td>一人を見るクラスのみんな</td> </tr> <tr> <td>それぞれ</td> <td>なかよくするのは、無理</td> </tr> <tr> <td>かが青が</td> <td>相手のせいにしている</td> </tr> <tr> <td>しれない</td> <td>たいこう心をもやす</td> </tr> <tr> <td>ふらがふら</td> <td>とても仲が悪い</td> </tr> <tr> <td>ちち作り</td> <td>東君と西君の関係</td> </tr> <tr> <td>かべ新聞</td> <td>↓</td> </tr> </table>	かべ新聞	「ぼく」の見方	上の方	気にしない	左の右	一人を見るクラスのみんな	それぞれ	なかよくするのは、無理	かが青が	相手のせいにしている	しれない	たいこう心をもやす	ふらがふら	とても仲が悪い	ちち作り	東君と西君の関係	かべ新聞	↓	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 50%;">かばい合う</td> <td style="width: 50%;">二人でいるのが</td> </tr> <tr> <td>おうとしている。</td> <td>楽しくなった。</td> </tr> <tr> <td>ゆずりあう、協力し合う</td> <td>楽しそう。</td> </tr> <tr> <td>かべ新聞</td> <td>↓</td> </tr> </table>	かばい合う	二人でいるのが	おうとしている。	楽しくなった。	ゆずりあう、協力し合う	楽しそう。	かべ新聞	↓	<p>【以前の様子】</p> <p>↓</p> <p>【変化したこと】</p>			
かべ新聞	「ぼく」の見方																														
上の方	気にしない																														
左の右	一人を見るクラスのみんな																														
それぞれ	なかよくするのは、無理																														
かが青が	相手のせいにしている																														
しれない	たいこう心をもやす																														
ふらがふら	とても仲が悪い																														
ちち作り	東君と西君の関係																														
かべ新聞	↓																														
かばい合う	二人でいるのが																														
おうとしている。	楽しくなった。																														
ゆずりあう、協力し合う	楽しそう。																														
かべ新聞	↓																														
	<p>○結局、二人は仲良くなったのかな。</p> <p>※心情スケールにて表す。</p> <p>※考えを可視化するため。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲良くなった。友達になった。</li> <li>・ちょっと不安がある</li> <li>・互いの性格や好きなものなどを理解できたわけではない。</li> <li>・少しずつ相手のことがわかつってきた。 (意外といい奴だった。)</li> <li>・協力できるくらいの仲にはなった。</li> </ul>	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>登場人物の気持ちが、物語の最初と最後で変化したことを読み取り、ノートにまとめている。(記述・発言)</p> <p>★【主体的に学習に取り組む態度】</p> <p>積極的に登場人物の気持ちの変化や変容したことについて、場面の移り変わりと結び付けながら想像して読み、伝え合おうとしている。 (話し合い、発言、記述)</p>																													

	<p>○題名の意味を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「壁の汚れを隠してしまったと東君と西君」や「汚れた壁を隠した壁新聞」でも、よかったのにね。</li> <li>・かべ新聞で「友情」が、深まつたんだよ。</li> <li>・かべ新聞がきっかけなんだよね。</li> <li>・誰の「友情」かな。</li> <li>・東君と西君の友情かな。</li> <li>・クラスのみんなや、「ぼく」、東君、西君の「友情」が深まつたんだよ。</li> <li>・作者は、全員の「友情」を表したんだね。</li> <li>・やっぱりきっかけは、かべ新聞だ。だから、「友情」のかべ新聞なんだ。</li> </ul>	<p>◇これまでの物語の内容から、題名の「友情」について考えさせる。</p>
まとめ	<p>○学習をふりかえり、次の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんなところが面白かったのかをみんなで話そう。</li> </ul>	

### (3) 評価の基準

A の児童の学びの姿	B の児童の学びの姿	B の基準に高めるための手立てや支援
登場人物の気持ちが、物語の最初と最後で変化したことを読み取り、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、題名に込めた筆者の思いを考えることができる。	登場人物の気持ちが、物語の最初と最後で変化したことを読み取り、題名の意味を考えることができる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登場人物の変化を追うことが一人では難しい。</li> <li>・どのように変化したのかが分からぬ。</li> <li>・題名の意味を考えることが難しい。</li> </ul> <p>↓</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着目する文章に印のある全文シートを用意し、それを手掛かりにして最初と最後の気持ちの変化をノートにまとめる。</li> <li>・登場人物の関係を人物相関図などで確認し、題名の「友情」に込めた思いに絞って考えることができる。</li> </ul>

### (4) 板書計画

